

公表：平成31年 2月25日

事業所名：あうりんこ

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	5	1	収納スペースを増やすことで、現在使っているフロア等もっと有効利用できると思う。
	②	職員の配置数は適切であるか	6		
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6		・玄関にスロープ有 ・室内に段差なし。トイレは車椅子対応可。手すり有。 ・保護者間掲示板有。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもの活動に合わせた空間となっているか	6		・毎日清掃行っている。 ・活動に応じて空間内の配置を変えている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのP D C Aサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	6		
	⑥	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6		意向を確認し、すぐ形にしてまず実行してみる体制を作っている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5		平成29年度分は公開済。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	4	1	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6		事務所内での研修有。外部での研修にも積極的に参加。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	6		
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6		MAS (Motivation Assessment Scale) を利用。Vineland・IIについて現在試験中。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	5	1	・日案・週案を作成している。 ・専門職で話し合い、行っている。

	⑮	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	6		内容が偏らないようにしている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	6		個別・集団それぞれの活動計画を毎月個人別に作成している。	
	⑰	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	5	1	各々行っているが、チームで十分に話ができる時間を作る努力が必要。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6		記録は状況と対応方法について分けて記載している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、放課後等サービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6		受給者証を更新時と利用開始から6カ月以内毎にモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	6			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	/			
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6		就学に際し、情報を共有している。(電話・文書・訪問など)	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6		移行支援シートを活用している。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5	1	・行っているが、もっと深めていけるようにする。 ・他の事業所からの見学を随時受け付けている。研修にも積極的に参加している。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	4	2	利用児の兄弟児やボランティアとの交流あり	
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	4	1		
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6		母子通園時や送迎時に現在の様子を確認してもらう。現状について説明し、目標達成に関する課題を共有している。	

	③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	5	1	・接し方について個別に説明したり、見本を示したりする。 ・行っているが、場合によって母子分離で来所などの場合、状況を説明していく必要がある。
保護者への説明責任等	③②	運営規定、利用者負担について丁寧な説明を行っているか	6		
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	6		
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と援助を行っているか	6		母子通園時、送迎時に現在の様子を確認する。必要に応じて面談実施。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	6		
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6		
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6		あうりんこ新聞を月1回発行。HPにも掲載。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	6		
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6		
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	4	2	避難訓練は建物内の住居や店舗と合同実施
非常時の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発声を想定した訓練を実施しているか	6		
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6		年2回防災訓練実施。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	6		初回面談時に聴取。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5	1	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6		
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6		
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	6		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。